

西来寺報

二〇一二年
お盆号

お盆の話

今回はお盆についてのお話をさせて頂きます。七月、八月になりますとお盆の季節がやってきます、七月の十三日から十六日まであるいは八月の十三日から十六日まで、それぞれ地方によって新暦と旧暦の七月か八月に勤められています、最近では八月のお盆の季節は故郷へ帰省する車の渋滞のニュースが報じられています。

では一体どのような由来によって勤められているのでしょうか。お盆とは正式には盂蘭盆会とい、私たちは略してお盆といっています。盂蘭盆とはウランバナと言う梵語からきておりまして倒懸(逆さまに掛けられる苦しみ)と訳されています。「仏説盂蘭盆経」というお経があり(おそらく中国で成立した偽経と言われています)その内容をかいつまんでお話しすると、お釈迦様のお弟子に目連尊者と言う人がおりまして、

神通力を持つていました。その神通力によって亡くなった母親の世界を見ましたところ餓鬼道に落ちているということでした。目連尊者は母親の姿を見て何とか食べ物をおあげしようとしましたが口のところへ持つて行くと炎と炭になってしまつて何も食べられません。大いに嘆き悲しんだ目連尊者は、何とかしようとお釈迦様に相談したところ、あなたの母親は罪根が深いので、あなたひとりでは救うことが出来ません、ここは多くの諸僧の威神力をかりればあなたの母親を救うことが出来るでしょうと云われたので、安居(初期仏教ではインドが雨期の間、僧侶達は外に歩き回ることなく、静かに精舎の中で修行や瞑想に過ごしていました)が終わった七月十五日に(自恣の日という)十方の諸僧にさまざまな食べ物、香、灯明を供養したところ、諸僧の祈りによって目連尊者の母親は長い餓鬼道であることが出来ました。以上が盂蘭盆経の簡単なストーリーです。

ところで、真宗以外の宗派ではお盆の頃に「施餓鬼会」と言う法要があります。施餓鬼の由来は「仏説救面餓鬼陀羅尼神呪経」というお経をもとに行われた行事でしたが、いつの間にかお盆の時期に行われるようになりました。いずれにしてもお盆の行事は日本人の祖霊信仰と結びつい手います。私たちがよく目にする光景は先ず、精霊迎えと云い玄関先などで火をたきご先祖を迎えます、また仏壇の前に精霊だなを作り位牌や提灯などを飾り、その前にいろいろな供物を並べます。その中にはナスやキュウリに足を付けた牛馬を作り精霊の乗り物を表現します、そして十六日の日にはまた送り火をたきご先祖を帰します。ところで、普段はその方々の霊はどこにおわすのでしようか。盆月の一日を「釜蓋朔日」と云つて、地獄の釜の蓋が開いて亡者が出てくる日だという伝承がありました。地獄の釜の蓋が開くと赤トンボが出てきてこれに乗って亡き人がやってくる云う話もあります。いざれにしても、亡くなった人はあまり良い所にはいないようです。亡くなった人を大切にお迎えしているですが、その根拠はどうもはつき

りしないのではないのでしょうか。私たち浄土真宗の門徒は別に特別の飾りを致しません。お盆を迎えるにあたってはお内仏の中をきれいに掃除をして、枯れた花がないよう、お取り替えをしてお盆を過ぎします。なぜなら、亡くなった方は浄土に帰られたのでどこかへ行ったり来たりしませんと云うのが門徒の考え方です、それ故人の人から見て門徒は何もしない、門徒物知らずだ、と言われてきたようです。

盂蘭盆と言うことですが、私はこのウランバナ(倒懸)という言葉は生きている私たちこそが道理と逆さまことをして苦しんでいるということを示していると思います。



御正当報恩講参加後記

さて、今回は御正当報恩講参加後に比叡山にのぼりました。比叡山の方も法然上人八〇〇回忌、親鸞聖人七五〇回忌と云うことで参拝者の方も多かったそうです。一行は比叡山を下り、雄琴温泉で一泊の後、翌日は湖東三山に向かいました。湖東三山とは西明寺、金剛輪寺、百済寺の三つの天台宗のお寺で紅葉が有名です。中でも西明寺には親鸞聖人が流罪地に赴いたときの座像がありました。今回は御正当報恩講の旅でしたが、また皆さんと一緒出来るような旅行も考えていきたいと思えます。

**親鸞聖人七五〇回御遠忌
ならび西来寺一二〇〇年
法要を勤修します**

このたび、本堂改修及び渡り廊下の完成にあたり、親鸞聖人七五〇回御遠忌ならびに西来寺一二〇〇年法要を本年十月二十八日に勤修することになりました。

お陰様で皆様のお力添えを頂きまして。本堂の改修、渡り廊下の完成を済ますことが出来ました。

落慶を含めて法要を営みます。

昨年、本山では七五〇回の御遠忌がとまりました。教区や末寺ではそのあとにそれぞれ御遠忌をお勤めします。当西来寺では昭和四十五年七〇〇回御遠忌を勤めました。(本山から十一年後の法要でした。)このたびは、一年後に七五〇回御遠忌を勤めることになりました。また、西来寺がまだ天台宗だったころ一乗寺と名乗っていました。その一乗寺の創建から数えておよそ一二〇〇年の歳月がたちました。このたび御遠忌、一二〇〇年、落慶を十月二十八日(毎年報恩講の日です)に勤めます。また当日は日曜日にあたりますので是非ご予定に入れておいて下さい。

法要は五〇年に一度の御遠忌です。すから大変重いお勤めになります。おそらく、今後、何十年とこのよ

うな法要に会うことが出来ないでしょう。私の代では最後と思っております。是非皆様の参詣をお待ちしています。ともに御遠忌をお勤めして下さい。尚、今回は法要に先だって庭儀列(稚児行列)も予定しておりますので、お孫さんやお子さんの参加をお奨め下さい。詳しくは下記のとおりです。

尚、法要のご案内は後日、日が近づいてまいりましたら別途ご案内申し上げます。

**ちごと
お稚児さん
募集します**



上記ご案内の通り、十月二十八日のご法要におきましては、稚児行列を計画中です。つきましては、お稚児さんとして行列に参加していただける方を募集致します。左記の参加条件をお読みいただき、お子さん・お孫さん等、奮ってご参加いただきたく、

ご応募をお待ちしております。

記

- ◎年齢三歳〜十歳 (小学校三年生) くらいの方
- ◎性別：男女は問いません
- ◎行列距離：一キロメートル程度をお歩きいただきます。(抱っこも可)
- ※雨天の場合は、庫裡から本堂までの行列となります。
- ◎参加費：一万円(装束等の支度の購入および借り賃に充当されます。)
- ◎保護者の方：当日、なるべくどなたかに(複数可)付き添いでお歩きいただきます。
- ◎募集人数：十五名〜二十五名程度

※応募人数が少なかった場合、稚児行列の計画を中止させていただきます。また、応募者多数の場合は先着順とさせていただきます。悪しからずご了承下さい。なお、ご不明の点につきましては、ご遠慮なくお寺までお問い合わせください。